

第10回 水害対策調査特別委員会

令和5年7月28日（金）

午後1時26分～午後3時11分

議会第1会議室

【出席委員】黒田利人委員長、平原嘉徳委員長、重松 徹委員、実松尊信委員、
村岡 卓委員、御厨洋行委員、江口善己委員、川崎健二委員、
藤田佳典委員、諸富八千代委員、稲葉嵩広委員

【欠席委員】福井章司委員、

【委員外議員】なし

【執行部出席者】

- ・総務部 坂井総務部長
 - ・農林水産部 川副部長
 - ・建設部 堤建設部長
- ほか、関係職員

【案件】

- ・被害を減らす対策について
- ・これまでの調査事項について

○黒田委員長

少し時間早いですが、皆さんおそろいですので、第10回の水害対策調査特別委員会を始めたいと思います。大変暑い中ですね、ご苦労さんでございます。いよいよ梅雨も明けて、山のほうは大分災害ありましたけれども、中心部におきましては、被害も少なく済んだような状況でございます。大変喜んでいただいておりますが、山の方たちにはお見舞いを申し上げたいというふうに思います。これからですね、また、8月に向けて、9月に向けてですね、どうなるのか、心配するところでございます。なお今日ですね、福井委員が欠席という届けがありますので、許可をいたしたいというふうに思います。

それでは被害を減らす対策について、執行部から、初めに説明を求めたいというふうに思います。

◎被害を減らす対策 説明

○黒田委員長

たった今、被害を減らす対策について、執行部から説明がありましたけれども、皆さんから質疑を受けたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○重松委員

2ページのスマート浸水標尺ですけれども、これはですよ、非常にパソコンとかスマートフォンから容易に水位情報が確認出来て、画期的だと思うんですけれども、実際、住民

が使うときにですよ、それを利用するときに、どこまでいったら危険があるのか、例えば80センチメートルまで浸水したらちょっと危ないとか、そこら辺の把握ですかね、住民への注意喚起に有効に使われているのかなあと思うんですけども、市民へのこの認知度ってどれぐらい、進んでいるのかですね、ちょっとよくわかんないんですけど、まだ1年ぐらい、1年ちょっとですから。

○江口河川砂防課長

このスマート浸水標尺ですけども、昨年の4月からホームページで公開しております。それで、アクセス数ですけども、昨年度、多いときが、昨年の8月17日に1日で2,612件アクセスがっております。アクセスの障害とかもなく、運用できたんですけども、今年についてがですね、7月3日と7月10日に大雨が降ったときに、1日で7月3日が1万3,000件のアクセス、7月10日が1日で3万2,000件のアクセスがっております。そのときに、同時の接続があって、ちょっとつながりにくいとかいう報告とかも受けているところです。大分市民に対して、認識が深まっているんじゃないかということでは考えております。

○稲葉委員

ちょっと今のに関連してなんですけれど、7月3日のとき、市のホームページ自体は簡易HTMLのほうに移行して、非常にアクセスがしやすくなっていたんですが、スマート浸水標尺に関しては非常に重かったんですね。そこのところの改善策というか、今後の対応というのはいかがでしょうか。

○江口河川砂防課長

このときにちょっと負荷が多くてですね、ちょっとつながりにくいとかいうのがありましたので、負荷を軽くするために、簡易的に表示できないかということで、今検討をしているところでございます。

○川崎委員

関連して、このシステムを使ってみてですね、その日、7月3日、朝の7時から8時ぐらいはですね、あまり雨も降ってなくて油断していたんですが、そのあと、急にがーって降りましたよね。で、この水位の上昇がですね、佐賀大学の横の部分と、この駅の周辺で違うんですよ。佐賀大学の横、普通、雨の地域が違うのかも分かりませんが、仮に一様に降ったとした場合に、佐賀大学の横の方は水位がみるみる上がっていくんですね。ところがですね、駅の周辺は一旦上がったらかなかなか下がらないんですよ。引けないんです。これ、データがこれだけ貴重なものがありますから、もっとこう分析をしておられると思います。どういった樋門を開けたら、もっと早く引けるだろうかとか、そういったのに使ったりはしてまずでしょうか。

○江口河川砂防課長

この、まずはスマート浸水標尺になる前は、自動で読み取りじゃなかったものですから、市民の方に見ていただいたりして浸水情報を仕入れて、どういった雨のときにどれだけた

まっているのかとか、そういった情報を仕入れて浸水対策に使うようにしておりました。それで、この29か所をスマート浸水標尺にした後は、もう自動的に浸水情報、その地点地点での浸水深とか浸水時間が分かっていますので、より詳細に浸水対策に活用しているところでございます。

○川崎委員

今でもこのデータは見る事ができるわけですから、そういった事後のですね、災害の後の、これからのことにしっかり研究していただければと思います。以上です。

○御厨委員

4ページのアプリの活用というところの説明をいただきましたけれども、ごめんなさい、ここはアプリを新たにつくるということで、理解しといていいのでしょうか。まずそれ、お答えください。

○上野危機管理防災課長

今年からの災害情報システム整備事業の中で、委員おっしゃるとおり、アプリの開発ということで考えております。防災アプリというふうなイメージ。

○御厨委員

それは、今、本市がやっているスーパーアプリと連携させたり、スーパーアプリの中に組み込むということになりますか、っていうかそうじゃないといけないって僕は思っていますけど、いかがでしょうか。

○上野危機管理防災課長

今、開発しております佐賀市のスーパーアプリとの連携、連動というところは当然視野に入れておりますので、その中に盛り込む考えでございます。

○御厨委員

ぜひそこはもうその中、スーパーアプリなのでその中で全部終わるようにしていただきたいと思えますし、さっきの浸水状況のやつもですね、私、SNSで発信したら結構評価よかったんですね。ぜひ、それももう分かりやすいようにしてほしいと思います。それとちょっと話が1個戻るんですけど、さがん電話というのは、具体的にどんな形なんですか。なんか録音した音声で、ぐるぐる流れるような仕組みでしょうか。このさがん電話についてちょっと教えてください。3ページにあります。

○上野危機管理防災課長

はい、さがん電話でございます。これは自動で電話をかけまして、例えば避難情報を発信するときに、どこどこ避難所開いていますというようなお知らせ出ますけど、それを自動音声で直接電話をかけるというふうなシステムになります。で、今、自治会長さんであったり民生委員さんであったり、それから高齢者や障がいをお持ちの方であったりということで、そういうメールとかほかの手段ではなくて、やはり電話がいいというふうな御希望の方がいらっしゃいますので、そういった方に御登録いただいて、そういう避難情報、

災害情報等の発信に、電話を使わせていただいているところです。

○御厨委員

そしたら結局、ちょっと1件1件かけるわけではなく、まとめて何かもうワンストロークでいくような、そういう仕組みがあるということで理解しておいていいですか。つまり人的要員もあまりとらないってというような仕組みですかね。

○上野危機管理防災課長

はい。電話については、自動発信ということでやっておりますので、もちろん、電話の発信の作業自体は必要になりますけれども、1軒1軒電話をするというふうな人的作業は伴いません。

○諸富委員

すみません。2ページのスマート浸水標尺とアプリ開発のところと関連してなんですけれども、7月の大雨のときに、実際にこのスマート浸水標尺のこのページは、自分が通る道がどれぐらい浸水しているのかとても役に立ったという声はよく聞いたんですけど、先ほど重松委員からもあったように、それが何10センチ浸水って具体的にどれぐらいなのかとか、イメージがしにくいという話があったんです。その中で、確か市がそのアプリ開発をしている、していたかと思うんですけど、その情報提供のなにか、共有のプラットフォームをつくるのかというのがあったかと思うんですけど、進捗はどんな感じになりますか。どれぐらいにできるとか、そういう市民からの写真を撮ってそれを投稿したら共有できるというような、たしかそういったページかアプリかを開発するという話があったかと思うんですけど。

○上野危機管理防災課長

市民からの情報提供機能、写真を撮ったりSNSにアップしたりというところの情報を、市の災害情報としても活用するような形で、先ほど御説明しました災害情報システムの開発の中で、その機能を取り込みたいと思っております。その情報を市民の皆様からのそういった画像としての情報提供、そういったものを逆にまた、市民の方にも公開して見られるような形でできればなというふうなところで、今、検討をしているところです。

そういったシステムアプリの開発といったところは、今年度から設計に入りまして、来年度構築をしていくようになりますけれども、実際の稼働というのは令和7年度、再来年、7年度の本格稼働を予定しておりますけれども、一部その、投稿機能を含めて、先に試行的運用ができるものであれば、6年度からでも運用を始めたいというふうに考えております。

○諸富委員

はい、ありがとうございます。ぜひこのスマート浸水標尺のこのページとかと連携して見やすいような運用を、ぜひお願いしたいと思います。

○重松委員

7ページの土のうですけれども、これ家庭でできる被害軽減対策の一つだと思うんですけれども、ただ、土のうというのは十分な取水効果を発揮するためにはですよ、意外と技術が必要とか経験が大事だとか、よく聞くんですけれども、製作者を見ておきますと佐賀市はほとんどボランティアの方が2,000個作ったり、諸富は市の職員さんがつくっておりますけれども、実際そのボランティアの方でそういった経験者の方たちが幾らか何人かいらっしゃって、指導しながら作ってあるのかですね。そうせんとその効果が全くなかったという感じだったら、意味がないですからですね、そこはどうなんですか。

○澤野道路整備課長

土のうについてはですね、簡易的なものではありますので、経験者とかそうした指導とか、そういった本格的なものではございません。ボランティアの方もですね、もう10数年、御協力いただいているところもありますので、作り方に関しては問題ないかと思っております。

○重松委員

倉敷市やったかな。土のうに変わるもので止水板とかですね、防水シート、シートをはってですね。デルタ何とかパネルと言うんですけれども、あれは非常に効果があるというのを聞いたんです。それは補助金をやっているんですよ、市から。そういったことは考えてないでしょうか、土のうに代わるやつで。そしたら、こんなもうボランティアこんなたくさんね、使う必要ないからですよ。ある程度こう、そういった止水板とか、デルタパネルとか、そういった助成をする。そういう考えは、これは倉敷やったかね。どこやったか、広島やったか。

○澤野道路整備課長

先ほど言われました止水板とかといったものはですね、大変効果があるかと思っております。今ちょっと、段階的に、道路整備課としましては、災害防止の軽減としまして、今、土のう設置ということで取り組んでおりますので、またそういった他都市の状況などを見て、また、今後検討していきたいと思っております。

○江口委員

3ページ、防災行政無線ですけれども、屋外の拡声、これは分かりますが、モーターサイレンというのは、どのようなものでどう違うんでしょうか。

○危機管理防災課職員

モーターサイレンにつきましては、注意を喚起するために大きなサイレン音が鳴るというものですので、例えば津波とか高潮で非常に緊急的な危険性のある場所に設置をするサイレン、強いサイレンが鳴るものというふうに御認識いただければと思います。

○江口委員

サイレンそのものは分かりましたが、影響力といいますか、この届く距離とかはどんなものでしょうか。

○危機管理防災課職員

おおむね2キロメートルの範囲内になります。

○稲葉委員

防災アプリについてもう一度お伺いしたいんですけども、こちらはもうゼロから開発をしていくものになりますか。

○上野危機管理防災課長

はい、防災アプリについては、業者からの開発業者からの提案を受けてってということにはなりますけれども、おおむねそのパッケージってというのが基本的にはありまして、それをどう組み合わせ、カスタマイズって言ったらいけないのかもしれないんですけど、そういったベースのものがある中でそこから発展させていくような開発の形態になるのかなと考えています。

○稲葉委員

そうしましたら、その参考としている先行事例の自治体っていうのはありますでしょうか。

○上野危機管理防災課長

中身の参考としましては、四国の松山市であったり、東京であったりっていうところを一つの参考にはしてきているところです。

○川崎委員

5ページの地域コミュニティとの連携ですけども、ちょっと私、恥ずかしい話ですが、神野校区で、あした、夏祭りがあってですね。おとといの晩もその準備の話し合いをしていました。御厨さんが事務局長されてまとめておられるんですけど、最初、全然話し合いになってなかったんですね、3年間やってなかったから活発でもないし、反対意見が出るしですね。ところが、昨日なんか見よったらもう、それぞれの五つの部会で話し合いをしていて、それぞれ仲よくなっているんですよ。で、隣に公民館長さんもいらっしやったので、これいいですねえっていう話をしたら、公民館長さんがですね、川崎さん、これね、災害で役立つとよって。ほらこの中にテント係がおるやろ。あれテント分かるよ、それから椅子が、机がどこにどれだけあるというのが分かるでしょう。子どもは誰が見るかとか、そういったのが災害のときに効いていくんですよっていうのを言われて、私も目からうろこです。そういった考えをもっと、私は知らなかっただけかもしれませんが、もっと普及せんといかんのかなと。そういった一般行事の中にですね、通常の行事の中での訓練、特別な訓練と別にですよ、そういった通常行事の中での訓練、例えば室内テントその時見せるとか、非常食を食べさせるとか、簡易トイレを使ってみるとか、そういうものをですね、出前みたいにして推進していくのはどうかなと思うんですけども、いかがでしょうか。

○上野危機管理防災課長

委員おっしゃるとおりだと思っております。実は出前講座の中、先ほど、出前講座の件数あたりも紹介をいたしましたけれども、地域での出前講座の中でも、取り組みやすいそういった地域防災の取組方というところも御紹介をしております。例えば、夏祭りの行事の中で例えば、子どもの消火訓練を一緒にやるとかですね、そういったところも取り組みやすい形で取組を始めてくださいというふうな御案内を、そういった出前講座の中でもさせていただいております。そういった例えば先ほどの子どもの消火訓練とかの実施に当たっては、ちょっと費用がかかったりというところもあるんです。それはまた、自主防災の補助金も御活用いただきたいということで、そういった支援もできるよということで、あわせて御紹介を差し上げているようなところです。

引き続きそういった取組のですね、やりやすい取組の仕方という、地域に合った取組のやり方ということで、御案内をしていきたいと思っています。

○藤田委員

情報発信のところですけども、その他で消防団等車両による広報というのがあるんですけど、これはその災害時の広報ということでしょうか。

○上野危機管理防災課長

消防団の広報、災害時ももちろんそうですけれども、例えば、火災予防週間であったりとか、年末警戒であったりとか、そういった時、ところでも広報活動をしていただいておりますので、そういったものを合わせての情報発信ということで、御理解いただきたいと思えます。

○藤田委員

年末警戒とか火災予防は、私も経験あるんですけど、災害時に広報活動した経験がなくてですね、自主的に分団長に許可をもらって、自分たちの地域のところを消防車で回ったりというのはあるんですけども、結構、個人的にですけど、その情報発信をしていると、やっぱり消防団がそういう情報発信していると、直接こちらに電話がかかってきたりとかもするんですね、知り合いの方からですね。なのであの辺はどう、この辺はどうと聞かれたりする。そこまではちょっと分からないので、上層部というか、支団長、分団長あたりには情報行ってるかもしれないんですけど、ちょっと末端の辺が全然情報が分からないというのがあるんで、その辺もできる範囲で結構ですので、消防団用の何か連絡とかですね、そういうのがあれば助かるなというのがありますので、そこはちょっとお願いします。

○平原副委員長

私のほうから2点、御質問させていただきたいと思えます。まず第1点目が自主防災組織の構築についてでございます。これ、本市は83.39%と非常に高いアベレージ、示されております。職員さん方の御尽力、そして地域の方々の御理解によって、この数字になっていると思えますけれども、単位自治会での活動はあるけれども、校区自治会での自主防災組織の設立というところもないところがあるというところ。それと、人材不足とっては

なんですけれど、そういった背景があつて、なかなか校区で自主防災組織が立ち上がって
いないところがあるように聞いております。

しかしながら、頻繁にある、この防災の昨今でありますので、佐賀市としてはやはり、
いろんな諸問題があると思いますが、100%を目指すというところは必至ではないかなと
いうふうに思いますので、まずその点について、ここにきていいですか、意気込みをです
ね、総務部長のほうに御答弁をお願いしたいと思います。

それと、ハザードマップ、ハザードマップは我々日本人ですから日本語で分かるんです
けども、佐賀市内においてもですね、外国人の在住されてる方も見受けられますし、今後
も増えていく可能性があるというふうに思います。そういった中で、外国人の方が、日本
人以外の方が、このハザードマップを見て分かるような、そういう仕掛けといたしますか、
そういう取組も必要ではないかなと思いますけれども、その点いかがお考えでしょうか。
お願いいたします。

○坂井総務部長

自主防災組織についての御質問をいただきました。自主防災組織につきましては、組織
の結成率でいきますと、ここで書いていますように、83.39%でございますけれども、校
区全体でお入りになられている校区、あるいはその単位自治会でお入りになられている校
区というふうに、市内で温度差があるというのは事実でございます。

平原副委員長が先ほど申されましたようにですね、私どもとしては、やはり、昨今の気
象状況を見ておりますと、非常に災害が激甚化をしていると、豪雨災害が非常に頻繁に
なっているということから考えればですね、もしですね、多重災害が起きた場合、大規模
災害起きた場合、これが起きた場合にはやはり行政だけで対応するのは限界があるという
ふうに考えております。そういう中で必要になるのはですね、共助、地域の方は地域のこ
とを皆さんで助け合って守るということも必要だというふうに考えておりますものではな
ら、自主防災組織の結成率100%を目指して、これからも取り組んでまいりたいというふ
うに考えております。以上でございます。

○上野危機管理防災課長

外国人向けのハザードマップということですね、御指摘あったかと思えます。これに
ついては、当然、外国人の方、東南アジアの方、増えてきておりますので、その方でも分
かるような多言語化ですね、そういったところも当然視野に入れて考えていきたいという
ふうには思っております。

○平原副委員長

ちなみに、今後開発されていくアプリ、アプリについてもその辺の対応は考えていらっ
しゃるんですね。

○上野危機管理防災課長

多言語化についても、そこも想定に入れながら検討したいと思っております。

○重松委員

ハザードマップの件ですけれども、非常にあちこちで線状降水帯が発生してですね、本当に水害とかがもう激甚化、頻発化しておりますけれども、そういった中でですね、どこやったかな、島根県がどっかで、全然そのハザードマップ新しいやつもらったけれども、その危険場所、例えばイエローゾーンとかレッドゾーンとか、そういった一切危険場所になってなかった、箇所になってなかったと。こういうようなことがあったんですけども、ハザードマップというのは本当に命を守るものですから、そういった危険箇所が載っていないとか、そういう、今の状況がですね、非常に大雨が降ったら本当にもう、想定出来ないような状況になっておりますので、なかなかハザードマップも、その箇所箇所、ここはもう危険場所ですよとか、なかなかこう指定できないか分からんけれどもですよ。やっぱり前もって、ここはもう危険箇所ですからというようなことをですよ、きちっと表示しとかんといかんと思うんですけども、そういったことはないですか。

○上野危機管理防災課長

委員おっしゃるとおり、危険を知るためのハザードマップでございますので、それをやっぱり、市民の方が、いま一度御確認をいただくという取組が必要なのかなと。こういうふうにしてからの、ハザードマップについても保存版として、各御家庭に配布をさせていただいております。多分一度は御覧になったかもしれないんですけど、ポイと置かれているようなところもあるのかなというふうに思いますので、まず、それがもう、いつも見やすいような形でですね、先ほどのアプリの部分も同じですけれども、身近に見れる、手軽に見れる、そういった形につくり上げていければなというふうに考えております。

○黒田委員長

ほかにはございませんですかね。なければ、被害を減らす対策についての項目については、これで質問については終わりたいというふうに思います。それでは次の項目のこれまでの調査事項について、皆さんには、以前にタブレットの中にですね、資料を入れていると思いますが、執行部にぜひとも聞きたいというところがあれば、質疑を受けたいというふうに思います。ここは聞いとったがよかろうというのがあればですね、受けたいというふうに思います。

○御厨委員

今回の雨ば聞いてよかとかな、今回の7月豪雨での対策は何か、何かこう、費用対効果といいますか、これをやったからよかったとかいうような気づきがあれば、ここで教えていただきたいなというふうに思うんですけど、いかがでしょうか。

○堤建設部長

具体的な数字としてお示しするまでには至っていないんですけども、当然先ほどからいろんな形で、御指摘をいただいている浸水標尺の部分については、御活用をいただいているということで、まず思っています。それと今年度から取り組んでおりますけれども、

お濠の事前排水であるとか、田んぼを含む農林部の大きな水路の事前排水、それから佐賀江の操作の当初のスタートをですね、早くすることで、より貯留のスペースを確保しながらすることについては、一定の効果はあったのではないかというふうには考えているところでございます。以上です。

○御厨委員

市民の方からですね、水の来て困っている連絡もあれば、今回は水の引くと早かったというお褒めの連絡も多数、実は来ておりますので、何かその辺をしっかりと調査をして、成果が現れたというのを示してもらえれば、なおいいのかなというふうに思っておりますので、はい、よろしくをお願いします。

○村岡委員

すみません、昨年から様々、現地視察等をさせていただいて、やはり県の施設や県そのものとの連携というのは、かなり指摘されていた部分があったかと思うんですけども、今回の豪雨での対応を含めてですね、この調査始めてから、県の連携というような部分、例えば施設の老朽化に対して申入れをしたとか、その反応がどうだったかとか、ちょっと県との絡みを教えていただければと。

○堤建設部長

まずちょっと連携というかですね、まず操作については、当然これまで同様、密に連絡を取り合うということはしておりますので、特に佐賀江川関連、本庄江の情報、いろんな形で情報のやりとりは、これまで以上に連携を取っておりますし、施設の最適操作に向けた取組をしております。

今回の水害、特に7月3日の1回目のときは、満潮に向けて非常に大きな雨が降ってしまっていて、排水がうまく機能しなかったというのが1回目、2回目は雨量は、平野部はそこまでないというか、それなりには降っているんですけども、それ以上に筑後流域の筑後川流域の雨が非常に多くて、もう下流の流す水位がですね、干潮時でも満潮以上の水位が常にあるような状態で、排水がなかなか効かなかったような状況がございました。

当然そういうのを受けて、下流の筑後川流域のほうに出すポンプというのは、それなりに稼働もしていただいておりますので、老朽化については、先日来、そのお話をさせていただく中で佐賀市のほうも聞き取りをしておりますので、それについては、当然しているということですので、それについては改めて確認をし合ってですね、稼働、実際の運用のときに、稼働に問題がないような形でですね、常に、連絡調整はしていきたいというふうには考えているところでございます。以上です。

○重松委員

今回もあったんですけども、特に佐賀江川が増水するとですね、やっぱり市中心部で浸水する箇所が出てくるということで、実際、そういった状況にあったわけですが、佐賀江川に流れ込む量、水の量を抑えるために事前にですね、何か、次に入る前

に、いろいろ市としても対策として、田んぼダムを今度、何ヘクタールから倍ぐらい広くしたとか何とか聞いたんですけども、そういった対策は梅雨前に取っておられたんですかね。

○川副農林水産部長

田んぼダムはですね、4年度から始めて最初は大体180ヘクタール、5年度、2年目は100ヘクタールを追加し、今年は280ヘクタールぐらいで取り組んでおります。大体10センチ程度の堰板を設けますので、28万トンが一時的に貯留できるという形にはなりますので、そういった、少しは佐賀江の浸水軽減に効果があったのではないかというふうに考えております。

○重松委員

あと、これは県の管轄だと思うんですけども、やはり、この梅雨前にそういった何ですかね、枝吉水門とかですよ、そういった佐賀江川に流れ込む水の水位を下げたりですよ、そういった対策を県自体も取ってあるんですかね。今回はどうなんですか

○堤建設部長

佐賀江川に流れるといいますか、佐賀江川側の水がですね、やっぱり毎日2回ずつ、干満の差がありますので、どの段階でスタートさせているのかになるかと思えます。それをちょっと今年度から通常の大雨洪水注意報ではなくて、早期情報から動いていますので、早めに水位低下をさせられるような取組をさせていただいています。

それともう一つが通常、佐賀江川の水位がある程度、洪水の状態にならないと、派川、要は八田江とか新川とか、ああいう川というのは通常使えない、川の操作をされておりました。ただ今年度につきましては、そういう水位にならなくても、操作をさせていただいていますので、上から落とすんじゃなくて下流に流し込むような操作は、今年度は間違いなくさせていただいておりますので、効果はあっているものというふうに考えております。

○黒田委員長

ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○黒田委員長

ないようであります。実は、本日の調査をもって、当初予定をしておりました全項目の調査を終えます。したがって、再度ですね、執行部に御質問がなければ、これで終わりたいと思いますが、いかがでしょうか。今から執行部に質問というのはもうできませんので、これでまとめて、こちらのほうでまとめてまいりますので、委員さんよかですね。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

はい。いいということですので、執行部におかれましては大変、今日まで御苦勞さまでございました。ありがとうございました。退席されて結構でございます。

それでは、ここで、10分ばかり休憩をします。40分から再開です。

◎午後2時30分～午後2時37分 休憩

○黒田委員長

それでは再開をいたします。初めに、ハザードマップについて副委員長のほうから補足説明をいたします。

○平原副委員長

お疲れさまでございます。実は先般、この水害対策調査特別委員会の正副委員長レクがございまして、そのレクを聞く中で、黒田委員長のほうから佐賀市内のハザードマップについて、ハザードマップをペーパーにして皆さんに、委員の皆さんに配ってはどうかという御提案がありました。

ところが、このハザードマップがかなりの数量という形になるということからして、今日は書類として提出をしておりませんでした。この後ですね、各議員さんが、このハザードマップ、自分の地元のハザードマップであったりいろんなところのハザードマップが、どういうハザードマップかということを知るように、分かるように、議会のほうにそのデータを頂いて、議会側のほうから各議員さんのほうにデータをお知らせをするということを考えておりました。

しかし、佐賀市のホームページを見たときに、各校区のハザードマップ、それぞれ議員さん方の地元のハザードマップ等がデータで見られるようになっておりますので、それを御確認をお願いしたいということと、今回の本特別委員会の委員だけじゃなくして、全議員さんのほうにもお知らせをしたほうがいいだろうという判断のもとですね、この特別委員会を終わって後、事務局のほうから、それぞれの市内のハザードマップはこのようになっておりますと、ここを見ていただければ分かりますというようなことのお知らせのメールを送ってもらうようにしておりますので、御了承のほどお願いしたいと思います。

○黒田委員長

以上でございますので、よろしく願いいたします。次に、被害を減らす対策につきましての各委員の所見を、順次お伺いしたいというふうに思います。

まず、重松委員のほうからずっと回っていただいでですね。どうぞよろしく願いいたします。

○重松委員

特にスマート浸水標尺ですけれども、これはもう非常に画期的だと思います。ただ、読み方がよく分からない、まず市民にまだ認知されていないというところがあると思うんですよ。だからもっと誰が見ても分かるような形、それとパソコンとかスマホを使わない方、そういう方たちのためにもですよ、目で確認できる、例えばその色分けしてですね、ここまで、この色にすればちょっと危ないですよとか、そういうのをですよ、ちょっともう少しこう、河川とかですね、つけてもらいたいなど、今日、こう話聞いててですね。そうせんとなかなかね、若い人たちとか、私たちぐらいまでは、スマート浸水標尺を見ればです

ね、大体説明を受ければですね、納得いきますけども。高齢者とかですね、そういう若い人たちなんかほとんど見ないからですね。だから、もう少しそこら辺のソフト面の対策をしてほしいなというふうに思います。

それとハザードマップですけれども、ほとんどの方がハザードマップをもらってもですね、全く見ないんですよ。水害とかちょっと危険な状態になれば、あつという気付いて見る方もいらっしゃるかもわからないけれども、なんかね、何か来とんねぐらいでもう、終わってしまうような感じだと思うんですよ。だからもう少しこう、これはちょっとすごいなと、これはよく見ておかないかなというようなものをですね、何かこう、もう少し分かりやすいとか、見やすいようなハザードマップの作成をしてほしいなというふうに感じた次第でございます。

○川崎委員

この前の7月3日の水害になりかけたところですね、短時間であんなにまちなかの水位が、ガーって上がるのに私はびっくりしました。やっぱり排水対策が、許容量を超えたんだろうなど。特に今回は筑後川が、もう向こうのほうで、もう、それ以上にひどかったからですね、何かやっぱり抜本的にまちなかの水を海に流す仕組みが必要、あるいはためる、まちなかでためる仕組みが必要じゃないかなあと思っています。

もう一つは、7月3日の後にこうぐるぐるってこう雨が上がってから見に行ったんですけど、ビルの玄関にアルミ板をしてあるところが何か所かあってですね。それから、個人の家のガレージの前にアルミ板で結構、波防止の板をしておられます。そういったものの補助もやっぱりこう、去年していただいたようなんですけども、もう少しこう、何か、強い材料を持って言わんといかんかなあと、お願いせんといかんかなと思いました。以上です。

○稲葉委員

私はまずはスマート浸水標尺のところ、7月3日の豪雨のときに、比較的結構チェックをしていたんですね。そのときにかなりアクセスが重なっていたのか、なかなかその表示されないことがありまして、今日お聞きしたところによると、簡易的な表示方法に変えて、対策を練っていくということでしたので、引き続きそこは対応いただきたいと思っております。このスマート浸水標尺のいいところがですね、推移の、浸水の推移のグラフが見れるんですよ。それが1時間、2時間、24時間っていうグラフが見られて、例えば場所によっては、時間、なかなか引かないところもあって、場所によってはすぐ引くところもあるんですよ。もちろん干潮満潮との影響もあるんでしょうけど、そういったところからさっき川崎委員もおっしゃっていたように、このグラフのデータを活用して、もう少しエビデンスに基づいた、今後対応というのを市のほうでも進めていただきたいと思っております。以上です。

○諸富委員

今日のソフト対策というところで、やはりアプリの活用ですとかスマート浸水標尺のと

ころは今後、活用が期待されるどころだなと思っております。で、本当に7月の大雨のときもでしたけれども、それ以外でも夕立とかですごい短期間にあつという間に排水溝があふれたりすることもあって、ちょっと怖いなと思う声もよく聞きましたし、後、私自身もその、本当に短期間でぱつと水が増えたときの対応というのは、考えなきゃいけないなと思うんです。ある程度、その予想がされるような大きな大雨災害のときは、自宅待機だったり休校だったりとかいろんな対応がありますけれど、急な夕立とかの水位が上昇するような場合には、いろんな避難訓練っていうですかね、マイ・タイムラインの作成と言われていていると思うんですけど、4ページですね。何でその急激な大雨のときの、自宅以外でそういう被害に遭った場合の、いろんなケースを想定したこのマイ・タイムラインの作成というのは、結構、急務なのではないかなと個人的には思っていますので、ちょっと注目したいと思っています。

あと、今日の話の中で出てきた土のうについては、高齢の方から、なかなか土のうの作業が負担で、実際は難しいというようなお声も聞いていましたので、止水板の話がありました。その辺りのことも注目したいと思っています。以上です。

○藤田委員

先ほど、消防団の話をしたんですけども、お願いをしたようにちょっと、消防団を、何というか、うまく使っていただきたいというのがありまして、例えばさっきの土のうもそうですけれども、以前本、本当10年ぐらい前のときだったと思うんですけど、土のうを準備をしていたんですけども、結局、取りに來れない、運べないっていうのがあってですね、たまたま自分に連絡が来たので、消防自動車で運びますよということで、積み込んで運んだりっていうのがありました。

実際その地域の方が消防団に何か助けを求めたいとなったときに、誰にどう連絡をしていいかというのは全く知らない。団長さんが誰なのかとか、分団長さんが誰なのか、消防団にそもそも消防署に連絡をするのかということも分からないっていう方が結構いらっしゃってですね。ただやっぱり消防車で回っていると、どんな感じねというふうに声をかけられたりもするので、先ほど言ったようにその情報をもっと末端といいますか、動いている人にも、もうちょっと詳しい情報が欲しいなというのがありますので、そこら辺はちょっとうまく使っていただきたいというのが、希望です。

○江口委員

執行部としてはそれなりに経験を積んで、精いっぱいのことをしてありますから、我々から見ると、説明聞きますと、かなりのレベルだなという感じはいたしました。いろいろございますけれども、私は自主防災につきましてね、今日もお話ありましたけれども、83%も現実はいってるだろうかなという気がいたします。この数字が出されましたからそれを否定するわけじゃありませんが、問題は自主防災組織はされていますけれども、その組織の中身で、本当に稼働するような、いざというときに役に立つ組織になっているかどうか

かという気がいたします。その問題が一つです。

もう一つ、事前排水ということは特に1年、ずっと執行部も言われてまいりました。お濠の事前排水もそうですけれども、そこそこの規模の水路がございますから、単なるお濠の事前排水だけではなくて、そういうところも、できれば、もうちょっとこう全体的に事前排水を効きますと、そこそこのボリュームになるんじゃないかという気がいたしております。以上です。

○御厨委員

もうほぼほぼ皆さんから出尽くしております、もう全く全て同感なんですけれども、最後に私自身もちょっと質問したように、今回の雨ではまた水の来よってという苦情というかお困りの声もあれば、今回は水が引くのが非常に早かったというお礼の電話も実はあって、だから今回の様々な整備だったり、事前排水だったり等の対応というのが、僕は一定の効果も出ているとは思っているんですね、だからこのあたりというのは、しっかり調査研究をして、また村岡委員さんも言われたように県との連携とかですね、その辺りちょっとしっかり整理をもっとしていただければというふうに思っております。以上です。

○村岡委員

今回のソフト対策ということで、大きくやっぱり日常のときに対する防災への意識という部分では、自主防災組織あたりの整備のほうになってくるかと思えます。実際水害というのはある程度事前に大雨の情報というのが今、かなりの精度で出てきていますので、いわゆるその事前に注意を促すという情報の発信の仕方と、あと、実際、降り出して来たら急激に水量が上がったり、局所的に水量が多いところとかというのが見えてくるので、そういったところに対してのピンポイントな情報発信というのが徹底されていくことが被害を減らす、につながるんじゃないかなというふうに思います。

今回提示されたアプリとか、浸水標尺の表示の仕方というのは、工夫していただければ効果が高いのではないかなというふうに感じました。

○実松委員

執行部も努力をされて、このソフト対策をつくってらっしゃいますけれども、ここに書いてあることというのは、もうほとんど他市でも行われていることばかりなのかなというふうに感じました。先ほどの質問の中で、重松委員も止水板のこととか、いろいろ聞かれましたけれども、他市の事例も調べながらというふうに言われましたけれども、これもうどこの市町もはっきり言って行っていることなので、他市を調べてじゃなくて、佐賀市が最初にやらんといかんと思うとですよ、もっと考えてしっかりと。この程度では、いざ何か起きたときに、市民の防災に対する意識とか高まるのかというと、高まらないと思うんですよ。このハザードマップというのは本当によく出来ていて、ちゃんと危ないところがしっかり浸かるんですね、しかし、先ほど言われましたように、なかなかそれを真剣に見ようとする人がいなくて、実際、また見ようと思ってもどこに行ったかなっていうふう

な状況になっていますので、このマップも入るとよね、アプリの中に。当然、携帯電話というのは常にみんな持ち歩くものなので、このアプリの中身も物すごく細かくしてですね、早く、アプリをつくるようにしてほしいと思います。

それと先ほど江口委員も言われましたけれども、この自主防災組織ですね。これはもちろん100%、今83.39%、100%に近づくように上げていただきたいと思いますが、この83%というのも、先ほど江口委員言われましたように、本当にこれが機能するのか、役目すましでやらされているのかという、その温度差というのも物すごくあると思うんですね。これ個々の働きかけっていうのも、佐賀市が積極的にもうちょっと市民に対して防災に対する意識の意識を高めるために何かやるのかと、地域任せだけではなくですよ、もっとちょっと真剣に取り組んでいく必要というのがいるんじゃないかなというふうに感じました。以上です。

○平原副委員長

今回の会議では私のほうからも質問させていただきましたように、外国人の本市における、外国人向けのハザードマップの作成と申しますか、そういった面とかですね、そこを強く感じました。それと、先ほど言いましたように、自主防災組織の100%を目指すという、江口委員のほうから指摘がありましたように、パーセンテージは上がっても、実際のところ一つ一つの組織の中身がどうなのかということまで、しっかりとしていく必要性があると思います。それと今日私、偶然でしたけれども、午前中にあるま高木瀬校区内の自治会長さんだったんですけども、ちょっと話があるということで呼ばれて行ってきました。ウィンブルドン付近が、先日の大雨でまた浸かったということで、前々からですね、要望書を上げていたけれども、佐賀市としての返答が、正式な返答が来てないというおしかりもございました。

もう1点は、大和町内でありましてけれども、川上校区の平田というところ、そして於保という単位自治会、そして檜田という自治会、池上という自治会がありますけれども、これは川上校区の一番南のほうなんです、大雨が降ったときは必ずここは浸水します。そういった問題もあるということを知っていただきたいし、執行部も知っていただいていると思いますけれども、我々が水害対策調査特別委員会で調査をしなかったところでさえも、そういう浸水被害に見舞われているというところを知っておかなければならない。また、それに対する対応も我々に課せられた仕事ではないかなというふうに思っております。そういう場所はもう、多々あると思いますので、各委員さん方もそれは承知されていると思いますが、そういうところを強く感じたところです。以上です。

○黒田委員長

私のほうからは、まず、重松議員とかほかの方も言われました止水板とか、シート、止水シートについて、やっぱり調査をするじゃなくして、もう踏み込まなくてはいかん時期に来ていると私は思います。なぜならば、土のうづくりで、私も毎回出て、1時間半ぐら

いで作る、ボランティアとして作るんですが、大変なんですよ、夏の暑いときですね。そういうボランティアに頼る部分はいいいとしてもですよ、それを前面に市が推し進めるといのはどうかなという気が率直にいたします。そういう面ではですね、やはり、他市でもやっている、そういうところがあればね、先ほどやりました止水板とかシートの、そういうのをされているわけですから、それについての補助を出すとかね、その事でやっぱり踏み込まなくちゃいかんというふうに率直に一点は思いました。

それとですね、自主防災の83.何%のからくりはですね、実は校区が35ある中で24できているんですが、24の校区は全てできているとカウントしているんですよ。だから、町区でできてないところも全てできているってカウントしているわけですよ。それで、町区でできているところは、もちろん町区を全てしているというカウントしているから、80何.何%で出るわけですよ。そりゃからくりですね、ほんなものはまだ低いですよ。しかしやっぱりそういうのもですね、実際に合った形でしないと、80何%でもうすぐ100%ばいっていうふうに勘違いしがちな数字ではないかなって。私は最近それ分かったんですよ。私もできているなと思っていたそういうからくりでございましたので、ちょっと問題があるなという気が率直にいたします。ほかのことについては、皆さん、いろいろ申されましたので、以上で私の所感といたします。

それでは、本日の調査をもって、当委員会の予定していました全項目の調査を終えたいというふうに思います。これまでの調査結果を基に、9月定例会において、当委員会の最終報告を提出したいと思いますが、いかがでございましょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○黒田委員長

異議なしということでございますので、そのように図りたいというふうに思います。なお、最終報告に向けた課題の整理について、行いたいと思いますが、これまで調査してきた中での皆さんからの御意見などを基に、正副委員長で最終報告のたたき台を作成したいと思います。皆さんからの特別こういうのをしたほうがいいのかというのであれば、こういう方向でしてほしいとか、今までの中であればお願いしたいというふうに思いますが。

○重松委員

県とか国ね、それと市。やっぱり浸水対策としては、既存施設を早めに連携操作してですよ、樋門操作とかですね。そういったことで、要するに事前排水とか、そういう対策を十二分にとってからですよ。そういった、佐賀江川が増水しないように、内水氾濫を起こしますからですね。そういった対策をまず、ここは基本だと思うんですよ。事前排水とか、そういったことをこれはもう連携してやらんと駄目なんです。国の樋門、県の樋門、市の樋門もありますけど、そういった対策をまず、連携を取っていただきたいということですね。

○稲葉委員

視察に行った際、福知山市のケースだったんですけれども、かなり市長を含め、あとはその担当部の方々がかなり中央のほうに陳情に行かれたそうなんです。それで多くの予算を獲得して、あれだけ立派なハード事業ができたというふうに伺いました。私たちもその排水対策基本計画、これを1日でも早く実現、最後まで実現するためには、やっぱり予算を中央からもっと取ってくる必要があると思うんです。そのためにも、今、副市長が国交省からお越しいただいていますので、そういったパイプをフルに使って、中央への働きかけ、これをより一層推し進めていただきたいと思います。

○川崎委員

同じく福知山市の運動場の下の貯水タンクですね。あれは佐賀市でも造ろうと思えば造れるなあと。あるいは、広島市のように、抜本的にお金はかかりますけども、下水道を例えば直径3メートルにすれば、物すごい量の水がたまるわけですね。何かそれぐらいの試算だけでもいいから、例えばこういった云々するとこれだけ佐賀市の場合かかりますよぐらいの試算ぐらいは、出していただけないかなあと。

○平原副委員長

試算だけでよかですか。

○黒田委員長

実は国とね、国が今、貯水とかについてですよ。一週間ぐらい前の新聞にそれについても予算をつけるというような形で出ていましたね。こういう豪雨とか何とかに関してね。恐らくそれは進んでいくということで、佐賀市がするかせんかのね、本気かどうか。

確かに一時はですね、私も用・排水対策調査特別委員会の委員長もさせていただいた時はですね、運動場を低くしたということで、雨で危ないとね。水ためるとお濠じゃないかという意見も出てきたわけですよ。それからだんだんだんだん、あんまり出なくなってですね、そういう人の命ということもあって、立ち消えたということも実はあります。何箇所か、そういう運動場を低くして貯水するというのも、今からの一つの方法かと思います。

ほかにございませんでしょうか。

○平原副委員長

これまで長きにわたり、本日、第10回というふうになりましたけれども、市の執行部の取組については、認めるところが多々あるとは思いますが。ですけれども、個人的に言いますと、田んぼダムで満足するような水の量ではないと思います。ということは、我々も広島等の先進地に視察に行き、いろいろな御意見がありましたけれども、本当にこの佐賀市の浸水対策をするためには抜本的なですね、抜本的な対策を講じると、実施するというのを、もうその時期に来ているんじゃないかというふうに思います。そのためには、稲葉委員が言われましたように、副市長が国交省から来られ、そしてやはり、副市長を中心となるかどうか分かりませんが、方針を出して予算を獲得するために、日頃から国のほうにお願いに行くということをしなが、予算獲得して抜本的な佐賀市の浸水対策につ

なげなければならないのではないかなというふうに思います。お言葉でありますけども、試算だけでは僕は駄目だと思います。

○黒田委員長

私はずね、1番初めにだったかな、時間当たり60ミリの国の基準がございますね。それについて質問をしたときに、それが基準になっているというふうな回答の仕方、前に進まなかったんですね。しかしこれ60ミリはずね、今、もうはるかに越している、佐賀駅前でも100幾らって降ってくるんですよ。そうなるとその基準も、やっぱり見直しをする時期ではないかなという、これは全国的な問題ですからあれですけども、佐賀市の場合にはそうして、現に何回か起きていることについて、やはり実例を挙げて、県なり国なりに積極的に要望していく、基準を変えるという姿勢を、やっぱり佐賀市に持っていただきたいなということも、それは特に入れたいというふうに思っております。

(「賛成」と呼ぶ者あり)

○江口委員

視察に行きましたら、例えば10年後にどうか、このような浸水は何年後に何とか対応するというのは、一つの目標がございましたね。そういうのは非常に分かりやすく、市民の皆さんにも届きやすいと思うんです。だから、稲葉委員がさっき言ったことと、委員長おっしゃったようなことを合わせますと、今回、副市長を頭にはずね、何とか一つの目玉は10年後、何とか何とかというのは、それぐらいのことが必要ではないかという気がいたします。以上です。

○黒田委員長

皆さん、ほかにございませんでしょうか。そういうのも含めて、たたき台を正副委員長でお示しいたしたいというふうに思います。なお、日程につきましては、以前言っておりました、8月10日、全員協議会がある見込みがあるということで、今予定されているそうでございますので、時間がどうなるか、午後になるか午前中なのか分かりませんが、8月10日については、皆さん最終でございますので、日程をとっていただきたいと思いません。

なお、後ればせながらはずね、この10日の日に、鈴木副市長の出席を求めて所信をお伺いしたいと、副委員長とちょっと話をいたしました。実現するかどうかわかりませんが、申入れだけはいたしたいと、皆さんの御意見もございましたので、いたしたいと思えます。よろしいでしょうか。そういう運びにいたしたいと思えます。

ほかに皆さんからなければはずね、大変皆さんご苦労様でございました。これで第10回の水害対策調査特別委員会を終了したいと、御苦労さんでございました。

令和 年 月 日

水害対策調査特別委員長 黒田 利人